

有田市コミュニティ・スクールだより

地域学校協働活動

中学校編

地域と学校で共に育てよう



前号では「地域学校協働活動」について小学校における例を紹介しました。活動する上で大事にしていることは、地域と学校が「支援する・支援される」関係ではなく、「地域にとっても学校にとってもプラスになる」という考えです。

「コロナ禍で制約がある中でも地域とつながる機会を持ちたい」「地域の方に元気になってもらえる取り組みをしたい」という思いを込めて、全校生徒がメッセージと写真でモザイクアートを作成しました。これは学校運営協議会で出された意見がきっかけとなり、生徒会が地域の人たちと話し合っ



180 cm × 360 cm

「地域を知る」ことから始まり、1年生は地域の職業調べ、2・3年生はプログラミング学習や総合的な学習の時間で地域の課題解決に向けて学習しました。各学年ともパソコンやタブレットを活用し、2・3年生の発表会では、学校運営協議会委員や関係機関の方々を招いて感想や評価をいただきました。コロナ禍の中でもできる形で地域に目を向けた学習を行い、新たな気付きを得ることができました。



No.12でお伝えした学校運営協議会発案の「中学生の自尊感情を高める」取り組みがその後も「持続可能な」形で続いています。中学生がボランティアとして地域の活動に参加し、小学生にバドミントンを教えたり、クリスマスイベントに向けて展示物(写真右下ツリーの両脇)を作ったりしました。「さすが中学生、頼りになるわ」と大好評でした。



1・2年生が4グループに分かれ、地域の「チーム六桜花」の方々と有田振興局の方を先生に、初島町の歴史・農業・工業・産業に関する学習をしました。実際に石碑めぐり(写真上)・石積み体験(写真下)・旧「東燃」調べ・作業用手袋工場見学を行いました。中学生は「地域のことで知らないことがまだまだあってすごく勉強になった」「地域の人と仲良くなれた」など多くの成果を実感し、地域の方にとっても知識や知恵、思いを伝えるよい機会になりました。

